

告示	番号	18	慢性心疾患
	疾病名	重複大動脈弓症	

重複大動脈弓症

じゅうふくだいどうみやくぎゅうしょう

概念・定義

右大動脈弓と左大動脈弓の残存により重複大動脈弓となり、血管輪が形成される。左右の大動脈弓は合流して下行大動脈となる。左右大動脈弓に挟まれることにより気管、食道が圧迫され症状が出現する疾患。

症状

新生児早期から高率に気管・食道圧迫症状が出現する。気管圧迫症状としてはほぼ全例に慢性的な咳嗽、喘鳴が認められる。重症化すると呼吸困難やチアノーゼが出現する。この呼吸困難は哺乳により増悪し、後弓反張の姿勢を取ることで軽減する。一方、食道圧迫症状としては嚥下障害と嘔吐が認められ、重症化すると体重増加不良となる。軽症例では離乳食の開始後に固形物に対する嚥下障害が出現することがある

治療

新生児・乳児早期から呼吸器・消化器症状が認められる場合には早期に外科的治療が必要である。多くの場合、細い方(一般的には左動脈弓)の動脈弓を結紮・切断し、血管輪を解除する。気管・食道の圧迫症状が軽度の場合には経過観察し、乳児期後期ないしは幼児期に血管輪解除術を施行する場合もある。一方、血管輪の解除術を施行後も呼吸器・消化器症状が改善しない場合には気管支、食道の再建術やストロンの留置を行い狭窄部位の拡大術を行う場合もある。ただし、効果については意見の分かれるところである

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_57_76.html